

No.19 さぎ山の現場＝中村元の記録

SMF 宝船展 2018

ジャンルを問わず自慢の力作を一堂に会し懇親を深め繋がる宝船展は他に類を見ない藝術の祭だ。年間で大変楽しい SMF の催しの一つだ。今回は、参加する表現者も、顔馴染みの人、若き新人、30 数組と多才でギャラリーも老若男女 家族 友達同士と年々増え 広がりを実感する。

“野良の藝術” 里山の現場 2017

SMF2016 年度 記録係りの私は、社会芸術/ユニット・ウルスの皆さんの多賀谷田んぼでの靱殻薫炭作り等の記録に携わり、2017 年度は社会芸術/ユニット・ウルス協力者として“野良の藝術”里山の現場 2017 で格闘するは皆さんを写真で記録し。見沼周辺の豊かな自然を体感、其処で暮すひとたちの生活の深さをあじわい、社会芸術家 吉田富久一氏の視点を記録に出来たことは嬉しかった。

人に役立つ可能性を秘めた化石樹と言われるメタセコイアが伐採され野積みされた景観には驚いてシャッターを押した。これも鷺山の生活の深さかと感じた、吉田氏がメタセコイアで作る炭を焼く窯を新しく築き「しめ縄」で仕切られた空間には、街中では感じられない、写真でも表現が難しい畏敬の念を感じた。

熟れた柿の実が残る畦道の対側に擲の林があり 木々の間に紐を張り手作りの衣文掛けで「キモノ」の虫干しを試みた萩原家のイサギよさ、その作り出された景色はキモノがアートに成った瞬間だった。



思い出の沢山詰まったキモノを違う空間に虫干し出来たらと!! 妄想が止まらない。

宝船展 2018 で里山の現場記録写真を社会芸術/ユニット・ウルスの皆さんのコーナーに展示出来て嬉しかった。

永い間 人生をして来たが今度の宝船展で若い方から刺激を受けた作品(言葉)がある。其れは内野知樹 君の作品「ほころぶ」だ。私の営む呉服店では中々発想出来ない言葉だ 着物の業界では「ほころぶ」は「ほころび」につながりほころびは糸と針で繕うと言う事なのだ。

私も写真合成で「妖精」の世界を創っているのだがこの「ほころぶ」の言葉により又 別の世界が開かれる思いがする、これからは思考の中に使わせて頂こう。

今回の SMF 宝船展を通して多く人が繋がり夢を具現化し SMF 宝船展が更なる喜びの藝術祭に成ると感じた。主催者 埼玉県立近代美術館に感謝！ 来年も宜しくお願い致します。

2018年3月 吉日

SMF 会員 中村元